特集：イメージング

巻末言：
「イメージング質量分析 特集号」の
刊行に寄せて

Ending Words

浜松医科大学医学部解剖学

兼務 東京大学工学部工学系研究科，東京大学医科学研究所，香港大学医学部解剖学
生理学研究所細胞器官系，浜松医科大学メディカルフォトリクス研究センター
瀬藤光利

Mitsutoshi SETOU

イメージング質量分析の総説，皆さまいかがでしたでしょうか。私的な感想を申し上げますとまずは今では日本に14もイメージングの研究を行う研究室があることを嬉しく思い，世界的な潮流をリードしている研究もあり日本も頑張っているなあと嬉しく思っています。人材育成が一番大切な仕事である大学人としては，今回の著者に研究室卒業の元学生にして質量分析学会の奨励賞受賞者で今は役員で頑張っている2名，元ポスドク3名，などの活躍がちりばめられていることをたいへん誇らしく思います。リアルタイム化や三次元化やフーリエやイオンモビリティでの高分離やSIMSの高分子化，さらには質量分析イメージングに特有なデータマイニングの新手法なども日本や世界で研究が進んでいて，今後質量分析を用いたイメージング手法はますます発展することと思います。とりまとめの新聞先生をはじめ執筆の先生方，素晴らしい総説ご苦労様でした。